

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項 目	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）7年7月判断は、前回7年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっていることから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、化学が緩やかに持ち直しつつあるものの、非鉄金属、金属製品が弱含んでいることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	7年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	6年度は増益見込み	7年度は減益見込み	↘
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
公共事業	前年度を上回っている	前年度を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパーは、衣料品等に弱さがみられるものの、米や総菜等の飲食料品が順調であることから、全体としては堅調となっている。コンビニエンスストアは、米飯類や飲料等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、医薬品や食料品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、エアコン等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ホームセンターは、季節商品に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。百貨店は、衣料品や身の回り品等の動きが弱いことから、全体としては弱含んでいる。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車は前年を下回るものの、小型車及び軽乗用車は前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。観光は、外国人観光客の増加などにより、緩やかに回復している。旅行は、国内旅行、海外旅行ともに、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 4月は前年よりも気温が低かったため、春服の動きが悪かった。足下では気温が上昇し、夏物衣料が動き始めているが、例年と比べると動き出しは遅い。(スーパー)
- 単価上昇に加え、備蓄米販売により、米の売上高が大きく伸びている。(スーパー)
- 外食の割高感や、食用油・光熱費などの内食コスト上昇から、総菜は引き続き好調。(スーパー)
- 品揃え強化や販売促進の効果などから、おにぎりやパン類の売行きがよい。(コンビニエンスストア)
- 買上点数は前年割れとなっているものの、物価高による客単価の上昇が全体の売上高を押し上げている。(コンビニエンスストア)
- 寒暖差が大きかったため、風邪薬等の医薬品や、ハンドクリーム等の保湿商品の売行きがよかった。(ドラッグストア)
- 米価格高騰のため、レトルトご飯や米の代替品としてシリアル、パン、麺類の売行きがよい。(ドラッグストア)
- エアコンは好調を維持。気温上昇に伴い、足下では平日でも買いに来られる方が増えている。(家電大型専門店)
- 備蓄米報道により精米機の売行きがよい。(家電大型専門店)
- 職場における熱中症対策の義務化により、エアコンや扇風機の需要が伸びた。(ホームセンター)
- 気温の影響などから、春夏物衣料の動き出しが悪い。(百貨店)
- 円高傾向によるインバウンド需要減少に伴い、高級ブランド製品が不調。(百貨店)
- 新保安基準対応への対応遅れによる生産停止が解消され、販売台数は引き続き回復傾向。(乗用車)
- 円安や国際線の充実によるインバウンドの好調と、瀬戸内国際芸術祭の開催を背景に、入込客数は前年比プラスとなっている。(観光)
- 国内旅行について、テーマパークや万博関連の商品が人気を集めている。(旅行)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

化学は、医薬品に動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。食料品は、堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。金属製品は、受注に弱さがみられ、弱含んでいる。非鉄金属は、原材料不足などから、弱含んでいる。

- 医薬品は、海外需要の高まりなどから生産量が増加。(化学)
- 米価格高騰の影響もあり、食パン・総菜パンの需要が増加。(食料品)
- 原材料価格が低下傾向にあることから、取引先が発注様子見の状態にあり受注が低調。(金属製品)
- 輸入原材料の不足などから、電気金の生産量が低下。(非鉄金属)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、6月末は全産業で30.2%ポイントと「不足気味」超となっている。

- 求人提出時期のずれなどで求人数の減少がみられているが、退職者の発生や業務量の増加などにより人手不足の状況が続いている。(公的機関)
- 賃上げを行わないと人手が確保できないとの声や、既存従業員の待遇改善に力を入れているとの声が聞かれている。(公的機関)
- 工事現場に配置が必要な技術者が不足していることから、受注を制限せざるを得ない。(金属)
- バスの運転手不足により、バス会社から予め運行不可日の伝達があるため、その日を避けてツアーの日程を組む必要がある。(生活関連サービス)

■ 設備投資 「7年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年4-6月期

- 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年4-6月期

- 製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっており、全体としては減益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、分譲においては前年を下回っているものの、貸家は前年並み、持家においては前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。

- 令和7年4月1日の法改正を前に、工務店によっては駆け込み着工が発生した。(専門サービス)
- 住宅価格の上昇で、引き続き需要が低迷。(建設)

■ 公共事業 「前年度を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等は前年度を下回っているものの、県は前年度並み、国及び市町村は前年度を上回っていることから、全体としては前年度を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (7年4月判断)	今回 (7年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
徳島県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
愛媛県	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
高知県	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。